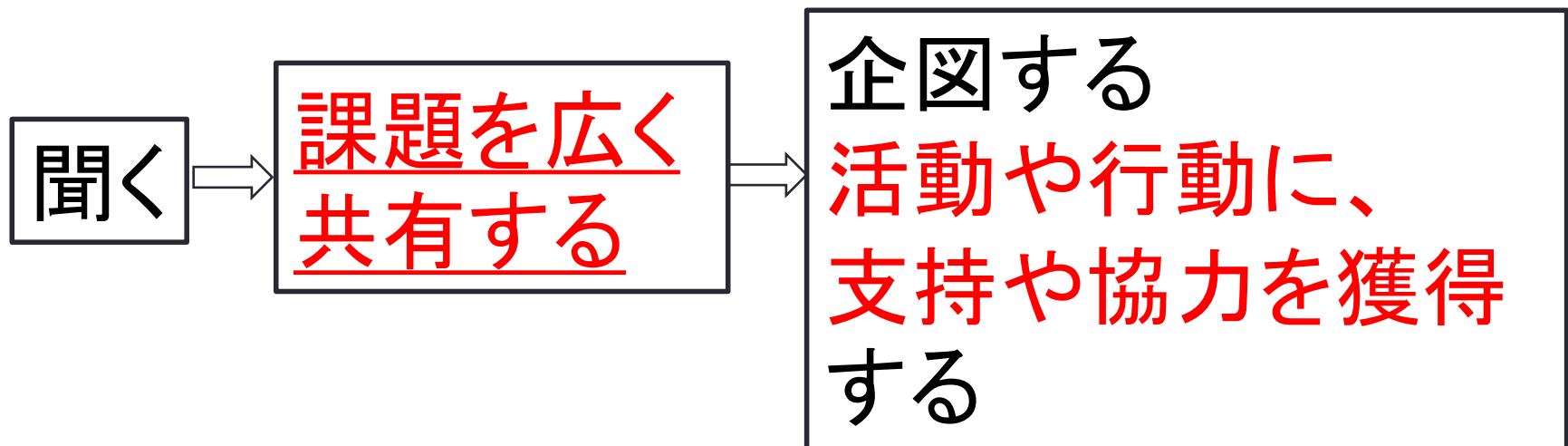


住民組織による アンケート調査を用いたコミュニケーション



住民としてアンケート調査を実施する目的は、
防災・減災につながる行動であるため、



事例A: 岐阜県白川村(H28.1~H29.2)

- 岐阜県白川村(人口1700人弱)の、大郷地区と北部地区の計132世帯。
- 高齢化の進む山あいの村落であり、地区特性として、集落規模が小さく、集落間に距離があり、住民同士のつながりは強い。
- 住民と行政担当者が**地区防災計画の存在を知らない**。
- 防災訓練や講座に参加できる人は、動ける人に限られる。
- 各種活動の担い手確保が課題であり、消防団活動の維持に加えて、新たな防災活動をしようとする存在は確認できていない。
- 避難(場)所が危険区域にあることや、調査票と報告の全戸配布が可能であることを確認した。

(1) 調査項目の設定

役場の防災担当者と住民組織の代表に、地区のコミュニティや防災活動の状況(訓練や消防団活動)を尋ね、地区で確認/周知/活用が期待される事柄をもとに設定した。

①災害への備えの現状として、

災害種類別の避難行動とタイミングの認識など

②助け合いの現状として、

声の掛け合いが期待できる対象(ご近所、消防団、親戚など)

同居者全員の状況(年代、平日昼間在宅者、外出時補助要否、携帯/メール/運転可否など)

来訪する家族等の状況(居住地、頻度、所要時間など)※T型集落点検を参考

(2) 調査票の配布

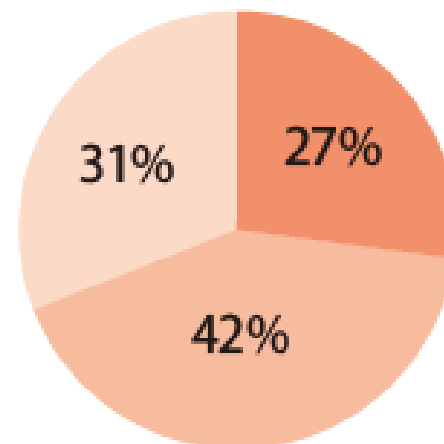
- 調査票の配布:住民組織が対象地区の全世帯(132世帯)に配布し、84票(64%)の回答を得た。

(3) 明らかとなった課題 (配布資料を参照)

いつ、どこに避難する n=72 (大郷地区での回答者数)

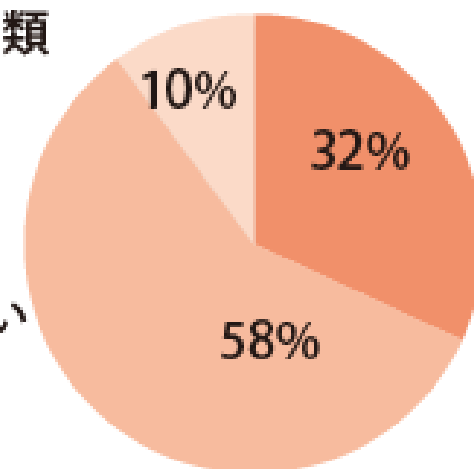
避難場所（一時的に難を逃れる場所）や避難所（避難生活をする場所）について危険な場所に立地するものがあります。

- 知らなかった
- あると知っていたが、どこが危険かは知らない
- 自分の地区で、どの避難（場）所がどのような災害時に危険か知っている



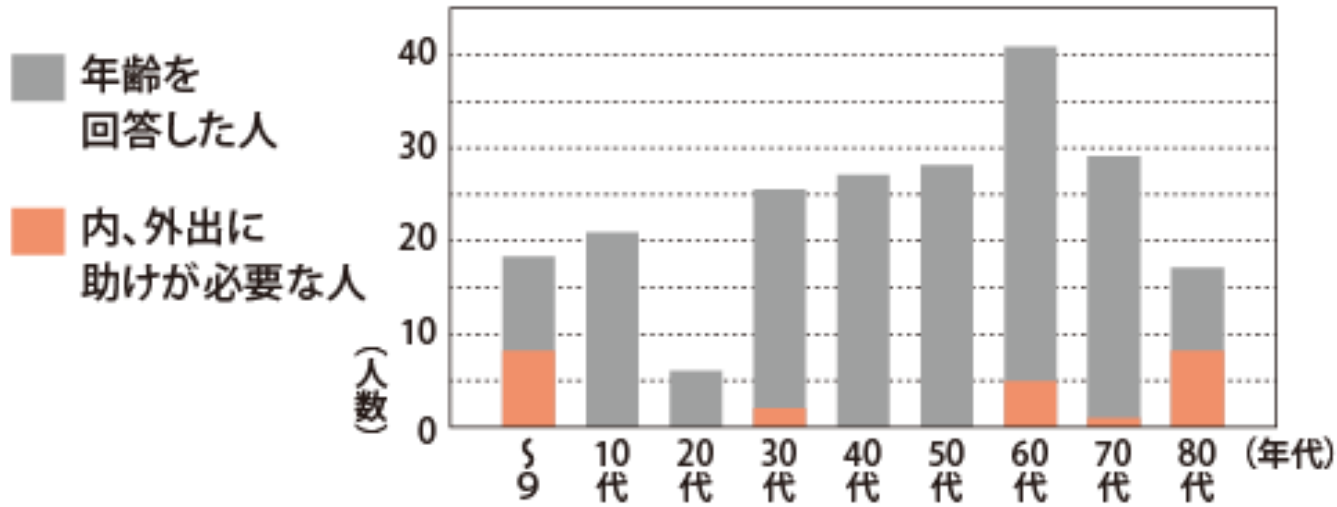
災害種類によって異なる「避難行動の種類とタイミング」が課題となります。

- 考えていない
- 考えているが、何かを決めておく程ではない
- あらかじめ考えて、決めごとをしている

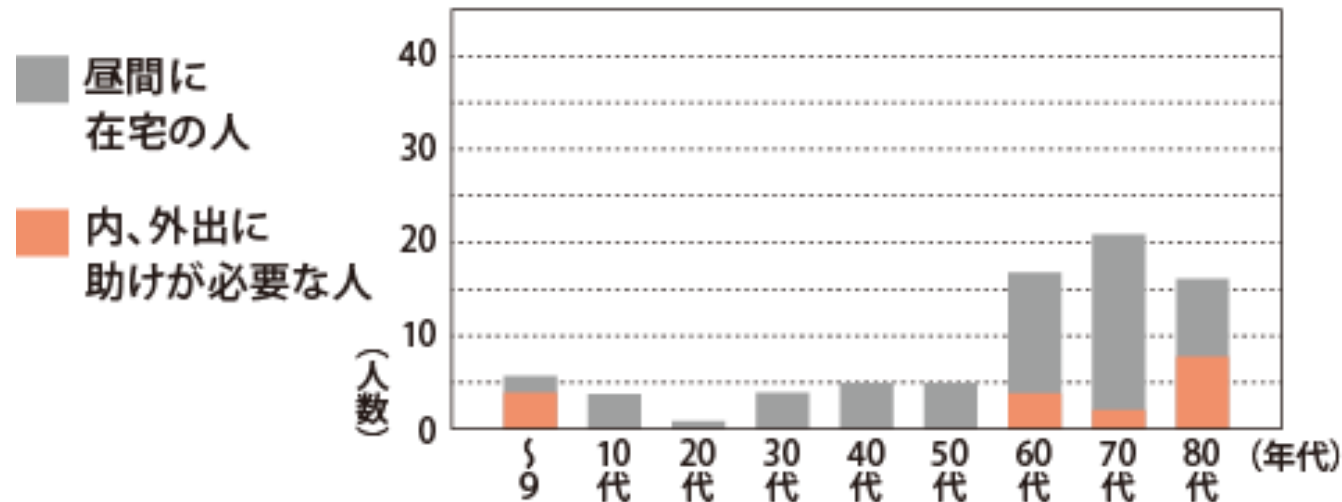


安否確認と要配慮者

休日や夜間 n=208



平日昼間 n=79



- 平日昼間の在宅者は、休日や夜間の3分の1程度。
- 消防団員を含む若い世代は不在で、外出に助けが必要な人が中心となっている。

(4) 報告の配布と活動

- 配布物は、住民組織の役員との意見交換会を反映して作成した。**推奨する避難種類や場所を検討し、ハザード情報と共に結果報告に記載した。**
- 共有したい結果と課題を、全戸に配布した。
- 同時に、課題解決策の1つとして、**ハザード別に避難場所と時期を記入するシールを配布した。**
- 2017年2月に、取り組みの成果を調査した。

シールの記入

「地区の決め事」の避難場所と、**参考情報①②**から、実際の行動を各戸で決めておく。

※移動手段の確保や、地区外の家族や友人に頼ることも検討しましょう。

地震と大雨、各3片に記入し、

1. 自宅用(見える場所に貼る)
自宅用と同じ内容を記入して、
2. 区長さんに渡す
3. 離れた家族や友人に渡す

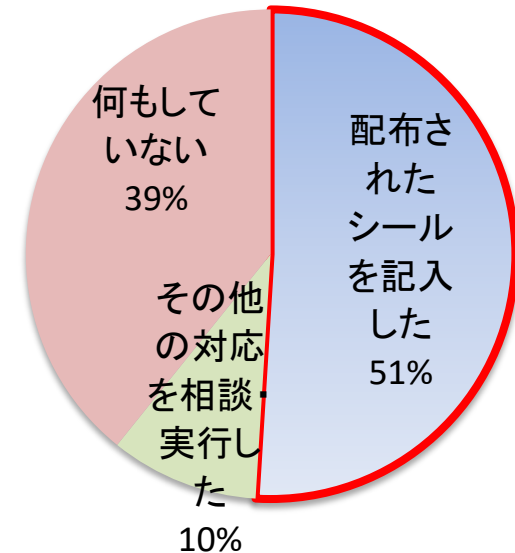
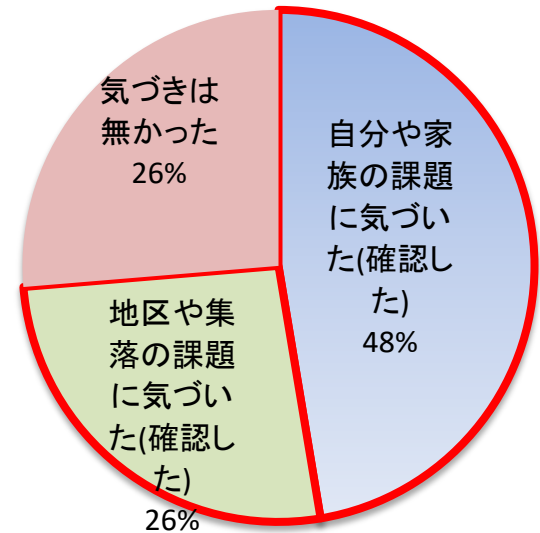
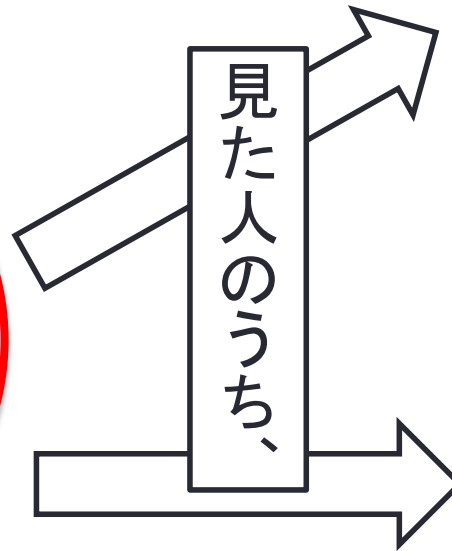
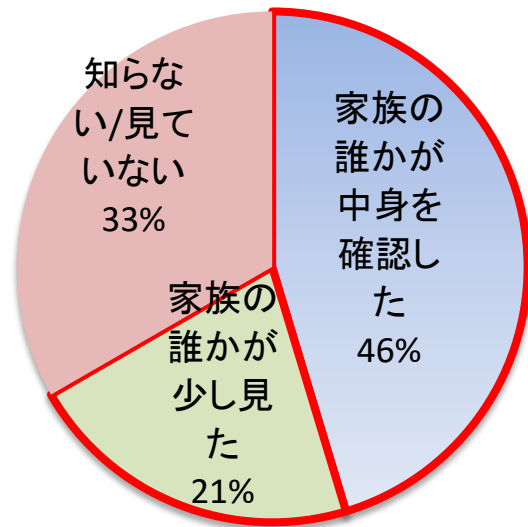
記入例：

地震	家屋の耐震性は、 <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない
	地震直後に避難場所に、 <input checked="" type="checkbox"/> 行く <input type="checkbox"/> 行かない(待避) <small>※でも不安になったら…</small>
	↓ ガス元栓を閉め、電気ブレーカーを落とし、 飯島集落センター に行く

大雨	家屋が被害の予想される場所に、 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない
	警報が出たら、避難場所に、 <input checked="" type="checkbox"/> 行く <input type="checkbox"/> 行かない(待避) <small>※荒天時の外出が被災の一因である</small>
	↓ 飯島集落センター に行く

(5) 成果

アンケートと同経路で全世帯に配布し、
75%の回答を得た(3/3時点)。



地区でのきめごとを、地区住民で検討し、示すことができた。催事では参加しない(できない)人に行動を促した。